

第5節 生 活

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、小学校学習指導要領、同解説生活編、埼玉県小学校教育課程編成要領を踏まえ、各学校における生活科の学習指導の改善と充実に資するよう作成したものである。生活科における基礎・基本は、小学校学習指導要領に示された目標及び内容であり、その中核をなすものが「具体的な活動や体験」である。それは例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの対象に直接働きかける創造的な行為や、そうした活動の楽しさ、そこで感じ、考え、気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇などによって表現する学習活動であり、これらは生活科の学習指導に不可欠なものである。そこで、本資料では、「具体的な活動や体験」を通して、児童が変容していく様子を示すようにした。これらを参考に、児童の思いに寄り添い、学校や地域の実態に即した授業の実践に積極的に取り組まれない。

2 取り上げた内容

本資料では、新学習指導要領の改訂のポイントを踏まえた上で、生活科の基礎・基本の確実な定着を図るために大切な六つの視点で構成することとした。

(1) 言語活動の充実を図る事例

すべての学習活動の基盤には、言語に関する能力の育成が位置付けられる。そのため、全単元、全活動で考慮していくべき視点であるが、特に本事例では、成長単元の中で、児童の自分自身の成長に関する多面的な振り返りや、過去の自分と現在の自分の比較などにより自分の成長を見つめ直すことで、言語活動の充実を図る指導について取り上げている。

(2) 気付きの質を高める事例

生活科では具体的な活動や体験を通して、関わる対象への気付きが生まれることが大切である。また、真の気付きは次の自発的な活動を誘発する。本事例では、秋の木の実や葉っぱで遊び、秋を楽しむ活動から遊びが発展していく様子をとらえるとともに、個々から生まれた価値ある気付きを学級全体に広めることで、集団の気付きの質を高めていく具体的な指導場面とその効果を示すこととした。

(3) 伝え合い交流する活動の充実を図った事例

これからの社会では、様々な方法で情報を伝え合う活動を行うことで、互いの関係を一層豊かにし、社会の一員として誰とでも仲良く生活し、ともに生きていこうとする態度を育んでいくことが必要となってくる。そこで本事例では、他学年児童や幼児、地域の方など、児童を取り巻く多くの人々と交流する様子を取り上げ、他者と関わることの楽しさを知り、意欲的に交流していこうとする児童の様子を示すこととした。

(4) 自然の不思議さや面白さを実感させる指導の充実を図った事例

自然現象を対象とした学習の中では、ただ漠然と活動するのではなく、科学的な見方・考え方を養うことが求められている。本事例では、児童が何度も繰り返し活動場所に出かけ、自然の中に浸ることで自然の不思議さに触れ、疑問や驚きをもつとともに、自然の素晴らしさを実感していく指導場面を取り上げている。

(5) 安全教育や生命に関する教育の充実を図った事例

児童を取り巻く社会の急激な変化や大きな災害を受けて、安全教育や生命に関する教育の一層の充実が重視されることとなった。そこで本事例では、町探検を通して、自分たちの生活が多くの人やものによって日々守られていることを知り、ひいては自分たちの命が大切にされていることに気付いていく指導の様子を取り上げた。

(6) 幼稚園や保育園との連携を図った事例

幼児教育から小学校への円滑な接続を図るためには、児童の学習環境についての見直しが必要である。児童自らの成長を実感させ、また、幼児の学校への不安を解消していく上でも、低学年児童と幼児と一緒に学習活動を行うよう配慮することは大切なことである。本事例では、幼児を招待して「秋遊びの会」を開き、児童と幼児が関わり合う活動を通して、児童、幼児双方の成長に効果があった場面や、実際の交流に向けての手続き等について具体的に示している。

3 活用に当たっての配慮事項

本資料の活用に当たっては、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料も併せて活用し、生活科で身に付けさせたい力を明確にし、基礎・基本の着実な定着を図ることが大切である。

生活科は地域に根ざし、児童の生活に根ざす教科である。取り上げた事例を基に、各学校、各地域の実態に合わせて創意工夫し、その学校ならではの学習活動が展開されることを期待している。

事例2 気付きの質を高める事例

児童のカードや作品からだけではなく、語る言葉や行動の奥に何があるのか適切に見取ることを日々大切に積み重ねていくことで、個々の気付きは高まる。更に話し合い活動を取り入れ、価値ある気付きをクラス全体に広めることで、学習集団全体の気付きの質を高めることができるようにする。

1 単元名 「あきとなかよし」～わくきらおんせん大さくせん～（15時間＋α） 第1学年 学習指導要領の内容(5) (9)

2 単元について

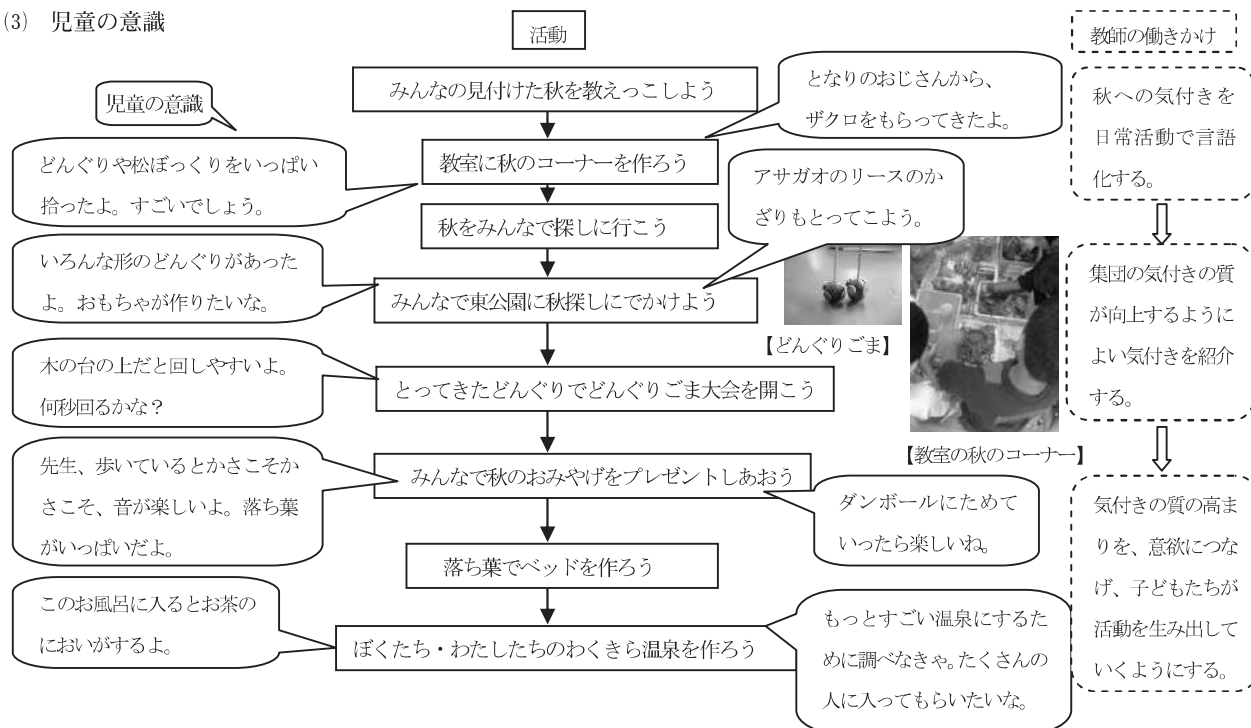
(1) 児童の実態

これまで、児童は「あさがおとなかよし」の単元で、自分のアサガオに名前をつけて、責任をもって世話をしてきた。お父さんお母さんとして、わが子の成長を喜び、花が咲いてからは、色水遊び、ネイルごっこ、押し花、コーヒー屋さんなどの遊びを満喫した。夏季休業中は一度家に持ち帰ったが、9月になると学校で種をとりながら、「大きな数」の学習をすることもできた。「残ってしまった茎をどうするか。」という話し合いをもった時、「自分の子どもだから捨てたくない。」という意見が出たため、アサガオのリースを作るようになった。飾りは、「あきとなかよし」で公園に行ったときの拾った木の実や松ぼっくりなどをつけることにした。児童は、生活科の授業だけではなく、生活そのものから立ち上がっていく学びを楽しんでいる。

(2) 学習環境からみた本校の特色

本校は町の郊外にある中規模の学校で、区画整理をされた町の中心にある「町のシンボル」となっている地域の学校である。昔ながらの雑木林や草原もあり、近くには二つの川も流れているため、虫とりや魚つりを楽しんだり、カブトムシやクワガタの幼虫などを家で育てたりしている児童が多い。祖父母が農業を営んでいる児童も多く、地域の先生になってくださるボランティアの方も多数いる。学校の見守り隊の方にかわいがられ、児童は元気に学校に通っている。また自校給食の食材の5割は、地元の畑で生産されたものであり、地域の方に感謝しながら、食事をする文化ができていく。

(3) 児童の意識



3 単元の目標と評価規準

◎身近な自然を観察したり、秋の自然物を利用して遊んだり、そこで感じたことを表現したりする活動を通して、その楽しさや自然の不思議さ、春や夏との自然や生活の変化に気付くと共に、ルールやマナーを守って楽しく遊ぶことができる。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
秋の自然に進んで触れ合い、秋の遊びを楽しもうとしている。	身近な秋の自然と触れ合い、秋の木の実や木の葉を生かして遊ぶものを作ったり、遊びを工夫したりすることができ、みんなで楽しむための遊び方や約束を考えることができる。	秋の自然を生かして遊ぶ楽しさや自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付くと共に、季節が変わると、自然の様子が変わること気付いている。

4 活動の実際

小単元名	主な活動	◆気付きの質を高めるポイント ◇教師の具体的な働きかけ
児童の気付きを受け止める教師の思い 9月 秋となかよしになろう 具体的なエピソードで、みんながイメージできるな。音の表現も大切にしたい。 色にも気付いている。お手紙ごっこを実際にしてみよう。	《秋への季節の変化に関心をもてる環境を作る》 T「みんなの見つけた秋をお話してね。」 C「お父さんがバンと、木をけつたら、どんぐりがトトロの映画の雨みたいにならざら落ちてきたんだよ。みんなの分もとつきたよ。」 C「この落ち葉の色すごくきれいでしょ。柿の色と同じなんだ。お手紙を書けるね。」 【どんぐりのおみやげ】 【お手紙ごっこをしよう】	◇「秋」に関する話ができるようにする。 児童が実物や写真などを持ってきた場合は、実際に見せて話ができるように促す。 ◆諸感覚を使っている言葉をカードに書き出し、掲示する。 ◇学年通信などで保護者に、休日の秋探しの依頼をする。 ◇児童が自主的に持ってきたものを「秋コーナー」を作って展示し、いつでも手に触れることができるようにする。
10月 みんなで秋を探しに公園に出かけよう 疑問をもって、探究していくことができそうだ。	《実際に共通体験として、公園に出かける》 C「ほら落ち葉でお面だってできるよ。」 C「色が変わって、葉っぱって落ちるんだね。いろんな色があるのはなぜかな？」 C「アサガオのリース用のどんぐりや松ぼっくりも拾えたね。」 C「どんぐりごまを作りたいな。」 C「みんなでどんぐりごま大会を開きたいな。」 【リースにどんぐり】	◆児童が落ち葉で遊んでいる写真を撮り、その時の言葉を児童の名前を添えて、掲示する。 ◇リース作りは、危険が伴うので保護者の協力を得て、ホットメルト接着剤で接着する。 ◇できあがったアサガオのリースは、名前をつけて校内に飾ることで、季節を感じることができるようにする。
11月 わくきら温泉大作戦を始めよう 落ち葉が乾燥してきて音がなるようになったことに気付き、楽しんでいる。 においの気付きも大切にしたい。みんなでお風呂に入りながら、かいでみよう。 自分たちが楽しむだけでなく、教師の予想を超えて、児童の新たな目標ができた。日にちを添えて掲示しよう。	《児童の考えを生かした活動を作る》 C「先生、かさこそ、かさこそ、いい音がするでしょう。落ち葉のおみやげ、はいどうぞ！」 T「ありがとう。ダンボールに入れておくれ。ベットになるかもしれないよ。」 C「先生、これベットじゃなくて、お風呂だよ。お茶のにおいがするよ。」 C「先生も入ってみて、すごく気持ちがいいんだから。」 C「お風呂じゃなくて、温泉だよ。」 C「きらきら温泉じゃなくて、わくきら温泉。だって、わくわくするから。」 C「もっと大きな温泉にしたい。」 C「こんなにいい温泉だから、たくさんの人に入ってもらいたい。」 C「歌を作って宣伝をしようよ。」 T「いろいろ温泉の歌をわくきら温泉の歌にできるかもしれないよ。」 C「先生、ぼくたちに任せて、作れるから。」 C「学校中の人に入ってもらうために、いい温泉にしたいな。」 【手作りわくきら温泉の看板】 【力を合わせてつくったチケット】	◆児童のお土産とその気持ちを大切に受け取る。 ◇大きな段ボールを渡し、落ち葉を入れて遊べるように、場の設定を行う。 ◆児童から生まれた「温泉」という言葉から、発想を広げるために、「温泉といえば何？」と問いかける。 ◆実際に、温泉やスーパー銭湯に行った時の経験で心に残っていることをカードに書く時間を設定する。 ◇温泉や、お風呂に関する絵本を毎日1冊ずつ読み聞かせする。 ◇「いろいろおんせん」（そうえん社）の歌を今月のクラスの歌にして、みんなで歌う。 ◆児童の歌のイメージが広がりやすいように、これまでの活動の写真とつづやきを教室に掲示する。 ◇全教職員に活動の趣旨を伝えておく。 ◇児童の歌を録音し、活動の際には流すことができるようにする。 ◇家でどのような話をしたか、お客様の感想を児童から聞く。

12月～2月 大人もどうぞ！わく きら温泉オープン 自分たちが感じて いる思いだな。活 動をしながら、心 情も育ってきてい るなあ。他の友達 の思いも聞いてみ よう。	《たくさんのお客さんをよぼう》 C「今度はおうちの人や、幼稚園や保育所の先生にも入ってほしい。」 C「こんなに幸せになれる温泉だから、きっと喜んでもらえる。」 C「先生、うちのおばあちゃんも来るって。」 C「幼稚園の先生にもチケットを届けたよ。『大きくなったね。字も 上手に書いているね。うれしいわ。』ってほめられたよ。」 【チケット入り招待状】 【たくさんのお客様を招待した子どもたち】 C「みんなに喜んでもらえてうれしいね。やってよかったね。」	◆話合いのあとに、振り返りカードに記述 する時間を設定する。 ◇「わくきらおんせん大きくせんをふりか えって」を書いて、みんなで読み合うよ うにする。
---	--	---



温泉の看板もできて、どん
どん本格的になった。

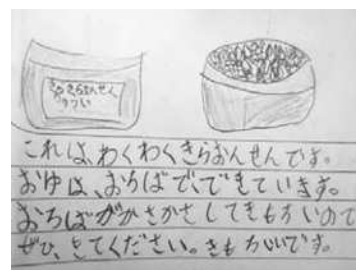


温泉とのお別れの日、最後
にもう一度みんなで楽しむ。

- わくわくきらおんせんソング（いろいろおんせん替え歌）
- さくし 一年きらきら二組
- さつきよく ますだゆうこ（ケロボンズ）
- 1 わくきらおんせん作ったよ
わくわくきらきらなりますよ
あら、まあふしぎ みんな にこにこになっちゃった
 - 2 わくきらおんせんためしてね チケット
どこでもうってます
あら、まあふしぎ みんな なかよくなっちゃった
 - 3 わくきらおんせん おすすめは 足ゆに、おまんじゅうに、
たいじゅうけい
あら、まあふしぎ おちやのにおいも するんです
 - 4 わくきらおんせんためしてね 出るとき
百までかぞえてね
あら、まあふしぎ 気もちが ぼかぼかになっちゃった
 - 5 わくきらおんせん入ったら、
さいごはシャワーでながしてね
あら、まあふしぎ どんどん つかれがとれていく
 - 6 ○○小のみんながやってきて
わくきらおんせんはいったら
あら、まあふしぎ あたまも よくなっちゃった
 - 7 一年二組が やってきて わくきらおんせん はいったら
あら、まあふしぎ きらきら二年生になっちゃった

太字は子どもの思いが表出した言葉

- 児童が書いた
わくきらおんせんの宣伝の言葉
- ①このおんせんは、先生がつくったおんせん
ではありませんが、みんなでかんがえたおん
せんです。おゆは、はっぱでつくってあり
ます。
 - ②わくわくきらおんせんは、ふかふかで
気もちがいいです。シャワーもあって、足
ゆも、あります。
 - ③わくきらおんせんは、おちやのにおいがす
るし、しあわせになります。つかれたとき
にはすごくいいです。
 - ④わくきらおんせんは、じぶんたちでつく
たどくべつなおんせんです。たいじゅうけ
いもあるし、マッサージもあります。一年
年二くみにきてください。
 - ⑤じどうはんばいでは、ジュース、おまん
じゅう、おんせんたまごもうっています。
 - ⑥うたもながれています。「わくきらおんせ
んためしてね。」ってうたっているところ
で、じぶんも入りたくなります。



自分たちで作った温泉であることが児童
の自慢になった。みんなに喜んでもらい
たいという願いにあふれている。

5 本実践を振り返って

秋に対しての気づきを共有する活動から始まった「あきとなかよし」は、教師の予想を超えて、最終的に「わくきらおんせん大きくせん」として、児童がつくりあげた活動になった。それは、一人一人の児童の気づきを大切にし、話し合い活動を重ねることで、集団としての気づきの質も高まったからだと考えられる。気づきの質の高まりは、探究活動のエネルギーともなった。「自分たちで入ってこんなに楽しいのだから、今度は家の人に喜んでほしい。」という願いは、児童の切実な目標となり、より良い温泉にするために自分たちで調べてきたことや経験を出し合って何度も工夫を重ねていったからである。さらに、この活動は、「幼稚園で落ち葉のベットはあったよ。でも先生が作ってくれたんだよ。小学校は自分たちで全部やるから忙しい、忙しい。」と語ったM児の言葉のとおり、自分の成長に児童自身も気付くこととなり、その喜びを3月に保護者とも共有することができた。

事例3 伝え合い交流する活動の充実を図った事例

身近にあるものを使った遊びや遊びに使うものを工夫して作り、その遊びの楽しさや面白さ、不思議さを、1年生や幼児、お世話になった地域の人など自分たちを取り巻く多くの人に伝える活動へと広げていく。遊びの交流を通して、人と関わることの楽しさを実感させ、伝え合い交流する活動の充実を図るようにする。

1 単元名 つくってあそぼう (24時間) 第2学年 学習指導要領の内容(6) (8)

2 単元について

(1) 児童の実態

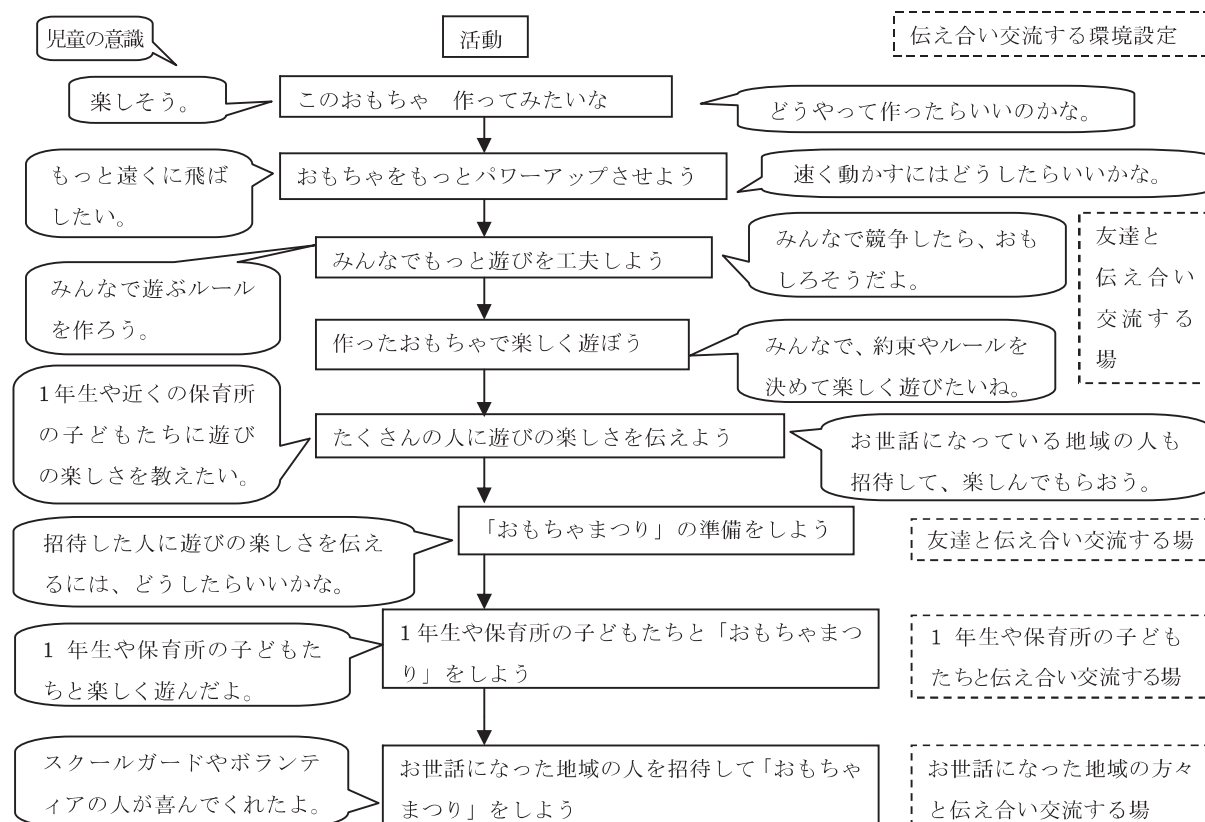
本学級の児童は、1年生の時に、昔遊びの活動を通して、地域の人と関わりをもっている。休み時間には外で元気に遊ぶ児童が多く、自分たちで遊び方を考えている児童も少なくない。放課後も、誘い合って遊ぶのは同学年の児童が多い。しかし、一歩学校を出てしまえば、外で遊ぶところは限られた公園であり、室内での遊びは一人でもできる既製のゲームや玩具などに限られている。

この単元では、身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどした遊びや遊びに使うものを作って、その楽しさや面白さ、不思議さをクラスの友達や1年生、地域の幼児や日頃お世話になっている地域の方などに伝えることで、進んで交流することをねらいとする。遊びの楽しさや面白さ、不思議さを伝えるという目的意識をもたせて、児童を取り巻く多くの人と関わせることにより、進んで伝え合い交流することの楽しさを実感させていきたい。

(2) 学習環境から見た本校の特色

本校は、市街地にあり駅に近いので、都内に通勤する保護者も多く、教育に対する関心は高い。学校支援のボランティア活動も活発で充実しており、学校支援の体制も整えられている。しかし、学級で祖父母と同居している児童は2・3名ほどであり、地域での世代間の関わりは年々少なくなっている。また、校地に保育所が隣接し、その保育所出身の児童も在籍しているが、小学校と交流する機会はほとんど設けられていない。

(3) 児童の意識



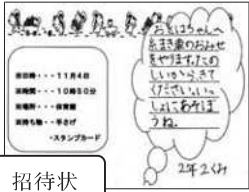
3 単元の目標と評価規準

◎身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむとともに、1年生や幼児、お世話になっている人を招待して、みんなで「おもちゃまつり」を楽しむことができる。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
- 身近な自然や物を利用して動くおもちゃを作ったり、みんなで楽しく遊んだりしようとしている。 - 自分たちの考えた遊びを身近な人々に伝え合うことに関心を持ち、「おもちゃまつり」を楽しもうとしている。	- 身近な自然や物を利用して遊びを考えたり、遊びに使う物を自分なりに工夫したりするとともに、みんなで楽しく遊べるように遊ぶ約束やルールを考え、それらをすなおに表現している。 - 招待した人に楽しんでもらうために、相手や目的に応じた遊びの仕方を工夫したり、学習してきたことを発表したりして、交流している。	- おもちゃや遊びを工夫することで楽しく遊べるようになるという面白さ、おもちゃが自分の力を加えなくても動くという自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。 - 相手や目的に応じた伝え方が分かり、互いに交流することのよさに気付いている。

4 活動の実際

小単元名（時数） ◎ねらい	○主な活動 ・児童の意識	◆伝え合い交流する 活動への働きかけ
1 うごくおもちゃをつくらう(3) ◎動くおもちゃで遊んだり、作ったりすることに関心を持ち、動く仕組みなどを考えながら、身近にあるものを使って、自分でおもちゃを作ることができる。  ゴムは、どこにつけたらいいかな。	○教師の製作した見本のおもちゃで遊ぶ。 ・おもしろそう。遊んでみたいな。 ・ぼくも作ってみたい。 ○見本のおもちゃや教科書を参考にして、おもちゃに必要な道具や材料を考えて用意し、試行錯誤しながら、自分のおもちゃを作る。 ・カップをどうやってくっつけたらいいかな。 ・坂道を作らなくちゃ。 ○自分が作ったおもちゃで遊んだり、友達と競争したりする。 ・どっちが遠くまで走るか、競争しようよ。 ・ゴムが切れた。もう一度作り直さなくちゃ。 ・走らないなあ。どこがいけないのかな。 いっしょに飛ばしてみようよ。	◆お互いのおもちゃで遊んだり、教え合ったりする交流の場を作る。 ◆工夫したことや気付いたことをカードに書いておき、伝え合う際に活用する。 
2 もっと くふうしよう(3) ◎自分が作ったおもちゃで遊んだり、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、自分なりに改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さに気付くことができる。	○友達と工夫したことを教え合うなどして、自分のおもちゃの機能が高まるように改良する。 ・ゴムを強くすれば、遠くまで走るんだ。 ・坂道を急にすると、うまく回らないね。 ・模様を書くと、楽しくなるね。	◆言葉を中心とした伝え合い活動を活発にするために、ルールや遊び方を言葉で伝えられるよう、お話カードに書いて伝える練習をする。
3 みんなで あそぼう(4) ◎自分たちが作ったおもちゃで、遊び方やルールを工夫しながら、みんなで遊びを楽しむことができる。  軽くすると、早く動くよ。	○みんなで遊ぶためのルールや遊びを話し合ったり、遊び方を紹介するための方法を考えたりする。 ・スタートラインを作ろう。 ・遊び方は、分かりやすく紙に書いておこう。 ○遊びながら、おもちゃを改良したり、さらに楽しくするためのルールを考えたりする。 ・これはうさぎみたいに跳ぶから、耳をつけよう。 ・チームを作って、リレー競争しよう。 ○みんなで遊んだり、友達に教えてもらったりしたことを、記録カードに書く。 ・チームを作ってやったら、とっても面白かった。 ・Aちゃんに、高く跳ぶコツを教えてもらったよ。	◆関わり方の活動や気付きを中心に、記入するよう助言する。 

4 「おもちゃまつり」のじゅんぴをしよう(5) ◎自分たちで作ったおもちゃや遊びの楽しさを伝えるために、「おもちゃまつり」を開く準備をすることができる。  看板作り 5 あそびの楽しさをつたえよう(8) ◎1年生や幼児、地域の人々などと一緒に「おもちゃまつり」を楽しむことで、身近な人々と関わることの楽しさに気付くことができる。 ① 1年生と遊ぶ(2)  ② 保育所の子と遊ぶ(3) ③ 地域の方やお世話になった方と遊ぶ(3)  これは糸巻き車といって、ゴムの力で動きます。 6 楽しかったことを伝え合おう(1) ◎交流した楽しさや感謝の気持ちを表現することができる。	○「おもちゃまつり」に招待する人や、遊びの楽しさを伝えるにはどうするか話し合う。 ・1年生に教えてあげたい。 ・保育所の子も喜ぶかもしれないよ。 ・図書のボランティアさん、来てくれるかな。 ・校長先生やお母さんにも教えてあげたいな。 ○相手や目的に応じて、どんな準備が必要か話し合い、分担して準備する。 ・1年生は、漢字が読めないからひらがなにしくちや。 ・保育所の子は、絵にしたほうがいいかな。 ・地域の方に、ありがとうの気持ちも伝えたいな。 ○1年生と一緒に「おもちゃまつり」を楽しむ。 ・1年生と一緒に遊んで、楽しかった。 ・1年生に、ゴムの不思議さが伝わったかな。 ・招待状を書いたBちゃんと、一緒に遊んだよ。 ○保育所の子もたちと遊ぶための準備をし、一緒に「おもちゃまつり」を楽しむ。 ・保育所の子に、遊びを教えるのが難しかった。 ・おもちゃが壊れたとき、直してあげたら「ありがとう」って言ってくれたよ。 ・Cちゃんの妹に、遊び方を教えてあげたよ。 ○地域やお世話になった人を招待するための準備をし、感謝の気持ちをこめて「おもちゃまつり」を楽しむ。 ・1年生の時けん玉を教えてくれたおじさんに、おもちゃの作り方を話して遊んだよ。 ・読み聞かせのおばさんが来てくれたよ。一緒に遊んだら、上手だねって言ってくれたよ。 ○自分で作ったおもちゃで、交流した楽しさを話し合い、お礼の手紙を書く。 ・昨日学校の近くで会ったから、あいさつしたよ。 ・なかよくなれたから、また遊びたいな。	◆楽しかった遊びを共有することで、遊びの楽しさを伝えることを目的とする。 ◆招待する人に、どんな方法で知らせるか考え、招待状のほか手紙や電話、ファックスなども活用する。  招待状 ◆相手意識、目的意識をはっきりさせて、それぞれに合った伝え方の違いを明確にする。 ◆1年生、幼児、地域の方にグループ分けして、準備する。一人一人に役割をもたせる。 ◆1学期の学校探検と一緒に活動した1年生の児童を中心に、遊びの楽しさを伝えるようにする。 ◆相手によっては、話したり書いたりする言葉や文字による方法のほかに、絵や身体表現なども取り入れた交流を考えるようにする。 ◆お礼の手紙を直接届けて、言葉の交流ができるような時間を設ける。
---	--	---

5 本実践を振り返って

本単元は、自分たちで作ったおもちゃの面白さ、不思議さ、遊び方などを伝えて一緒に楽しむことを目的とした伝え合い活動である。言葉を中心とした交流ができるよう、相手意識・目的意識をはっきりさせた伝え合いカードを書かせたり、お話カードで伝える練習の時間を設けたりすることに重点を置いた。そうすることで、児童は自信をもち、自分から進んで声かけをしたり、一緒に楽しんだりして、交流する楽しさに気付くことができた。実践後には交流が深まり、休み時間に1年生と遊んだり、地域の方に進んで挨拶したりする姿が見られるようになった。

事例4 自然の不思議さや面白さを実感させる指導の充実を図った事例

何度も繰り返し活動場所へ出かけ、自然にたっぷり浸る活動を十分に行うことで、児童は季節の移り変わりや生活の様子が変わること気付くとともに自然の不思議さや面白さを実感することができる。

1 単元名 あそびにいこうよ なつ・あき・ふゆ・はる (38時間) 第1学年 学習指導要領の内容(5) (6)

2 単元について

(1) 児童の実態

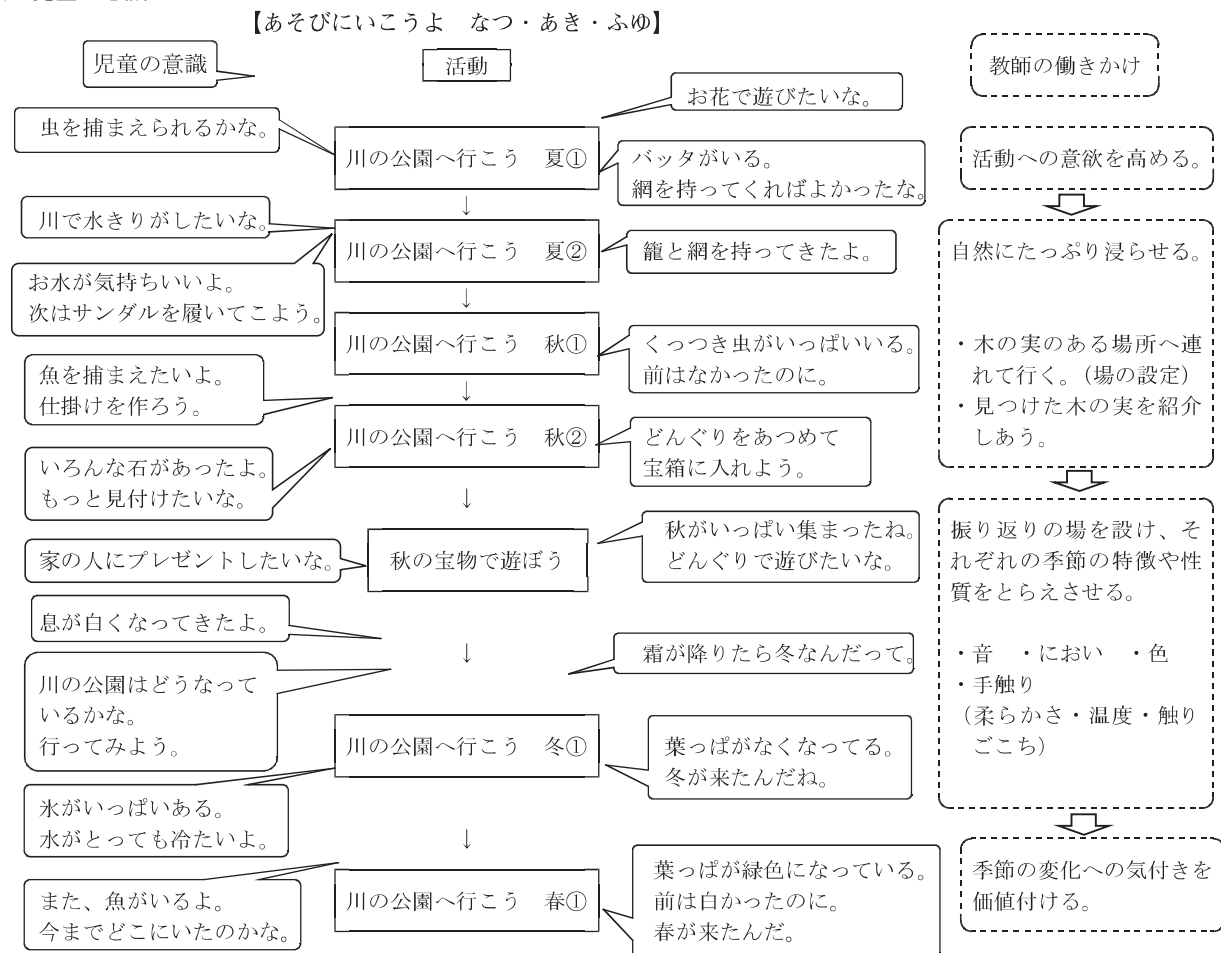
公園の近くの河原は、夏に夏祭りや水天宮祭が行われるところで、入学前に散歩に行ったり、どんぐり拾いをしたりして遊んだ経験があり、児童にとっては入学前から周知の場である。

単元を構成するに当たっては、近くの公園に何度も出かけて自然に親しむ活動を繰り返し、自然にたっぷり浸った経験が少ない児童に自然の中でたっぷり遊び、葉や草の色の変化、木の香り、虫の鳴き声、水や砂の暖かさ等、自然の面白さや不思議さを十分に味わわせることにより、自然の中から出てくる遊びの楽しさや自然の不思議さを体感させたい。また、身近な自然や季節の変化に気付かせ、自分たちの生活に生かしていけるようにしたい。

(2) 学習環境から見た本校の特色

本校は、町の中心に位置し、校区は駅を中心とした市街地、田畑の残る地区、山のある地区と広範囲にわたっている。校舎からは秩父連山がすぐそばに見え、山の色で季節の変化を感じることができる。また、片道徒歩15分程の範囲に、神社や寺、公園、荒川など、児童の思いに応えることのできる様々な場所があり学習環境に恵まれている。

(3) 児童の意識



3 単元の目標と評価規準

◎遊び場(川の公園)で、野遊びや草花、木、虫などの観察をしたり、人との関わりを通して自然や生活の様子が季節とともに変わっていくことに気付いたりすることができる。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
校庭や遊び場の自然に関心をもち、友達と楽しく遊ぼうとしている。	校庭や遊び場の自然物、身近にある物を使って作ったり、遊び方を工夫したりしてみんなで楽しむと共に、遊びの楽しさや季節に応じた楽しみ方を表現している。	身近な自然や友達と関わって遊ぶことを通して、みんなで遊ぶことの楽しさや、自然や生活に見られる季節の変化に気付いている。

4 活動の実際

季節	「小単元名」◎ねらい	○学習活動 C 児童の反応 ・児童の姿 T 教師の関わり	教師の働きかけ
夏	「なつとあそぼう」 ◎木の葉や実・虫などを探したり、川で遊びを工夫したりして、自然の中で楽しく活動することができる。 ・夏の宝物を見つける ・石拾い ・石集め ・虫探し ・草花集め ・木登り ・遊具で遊ぶ ・水きり ・魚釣り	○川の公園へ行行って、木の実や葉などを見つけて遊ぶ。 ・1回目の遊び。最初は立って川を見ている子、砂をいじっている子が多かったが、時間がたつと水に触れ始めた。 C「水きりはおもしろい。」 T「どうすればうまくできるの。」 C「平らな石ならうまく水が切れるよ。」 C「こういう石で水きりをする、うまいくんだよ。」 C「水は気持ちいい。」 C「魚は動きが素早いからなかなかつかまらないなあ。」 C「仕掛けを作って追い込もう。」 C「バッタを捕まえた。」 T「なんていうバッタなのかな。」 C「分かったら教えてあげるね。」	◇子どもたちの思いを大切にし、活動への意欲付けを図る。 ◇導入を短時間で行い、自然に浸れる活動時間を十分にとる。 ◇めあてに応じた活動が始められるように見守る。 ◇その子なりの発想で作ったり遊んだりしている子の活動を見守る。
秋	「あきをみつけよう」 ◎校庭や川の公園で見つけた秋に関心をもち、探したり遊んだりすることができる。 ・草花集め ・どんぐり拾い ・落ち葉集め ・石集め ・水きり ・砂山作り ・木の葉や実のおもちゃ作り ・木の実や葉で遊ぶ	○川の公園へ行行って、木の実や落ち葉などを見つけて遊ぶ。 ・道ばたにある植物に目が向く。 C「くつつき虫がいっぱい取れた。」 C「どんぐりもいっぱい落ちてたよ。」 C「前はなかったのに。秋になったんだ。」 T「そうか、秋になったんだ。すごいところに気付いたね。」 C「石が冷たくなったから足が乾かないよ。石の秋だなあ。」 C「お水も冷たくなってきたよ。水の秋だ。」 ○葉っぱや木の実などの自然物を使ったり、遊ぶ物を作ったりして遊ぶ。 C「どんぐりで遊びたいな。」 C「家の人にプレゼントしよう。」 T「いいアイデアだね。」	◇秋になって変わったところや楽しかったことを発表し合い、秋のよさや秋と関わって遊ぶ楽しさを共有する。 ◇予想される活動に必要な道具や材料を用意しておく。
冬	「ふゆとともだち」 ◎冬見つけをししたり、冬の自然の中で遊んだりして、季節の変化を感じ楽しむことができる。 ・動植物の冬越しを見つける。 ・氷で遊ぶ ・氷投げ ・氷のペンダント作り	○川の公園へ行行って冬の自然の中で楽しく遊ぶ。 C「息が白く見える。すごい。たばこをすってるみたい。」 C「木の葉っぱがなくなってきたよ。」 C「霜が降りると冬なんだって。」 C「だからみんな白くなっているんだ。」 T「よく見つけたね。他にはないかな。」 ・氷の下をのぞき込み魚を探す。 ・氷を持ち上げ息を吹きかけ穴を開ける。 ・氷を小さく砕いてペンダントを作る。	◇自分なりのやり方で遊んだり、作ったりしている子のつぶやきに耳を傾け、工夫を見取る。 ◇振り返りの場を設け、それぞれの季節の特徴や性質をまとめる。
春	「はるをみつけよう」 ◎草花や虫などを探し、季節の変化に気付くことができる。	○草や葉っぱの色を比べたり、遊びを工夫したりして遊ぶ。 ・公園の草を見て。 C「わあ～緑になってる。白かったのに。」 C「本当だ。すごく元気になってる。」	◇季節の変化に気付かせる。

5 本実践を振り返って

「夏・秋・冬・春」と季節をまたいで同じ公園に遊びに出かけた子どもたちは、夏の河原で水きりをし、濡れた足を石の上で乾かし自然の暖かさを体感した。秋の公園では、オナモミやクヌギのどんぐり、乾いた落ち葉で思う存分遊び、秋のにおいを身体全体で感じた。冬の河原では、一面に張った氷の大きさに驚くとともに、その下で生きている生き物の生命を気遣った。友達と協力したり、助け合ったり、教え合ったりする姿も見られるようになり、身体全体で自然の中で遊びながら、季節の移り変わりに気付くとともに、自然の面白さを味わうことができた。

事例5 安全教育や生命に関する教育の充実を図った事例

児童を取り巻く社会の急激な変化や大きな災害を受けて、安全や生命の大切さへの意識が高められるよう配慮し指導することが大切となっている。地域の安全を守っている人々や環境に視点を当てることで、安全への意識や見守られていることへの気づき、感謝の気持ちを育んでいく。

1 単元名 「わたしの町大すき」 (25時間) 第2学年 学習指導要領の内容(3) (8)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童は、1年生の時、学校を探検したり近くの公園に出かけたりして、身近な環境に親しんできた。2年生に進級して新しい学級にも慣れ、友達も増え、行動範囲も自宅と学校を結ぶ通学路から、隣近所や近くの公園、友達の家、商店街というように少しずつ広がってきている。学校支援ボランティアの方や交通指導員さんとの触れ合いも増えているが、安全に対する意識や見守っていただいていることへの気づき、感謝の思いは児童によって様々である。

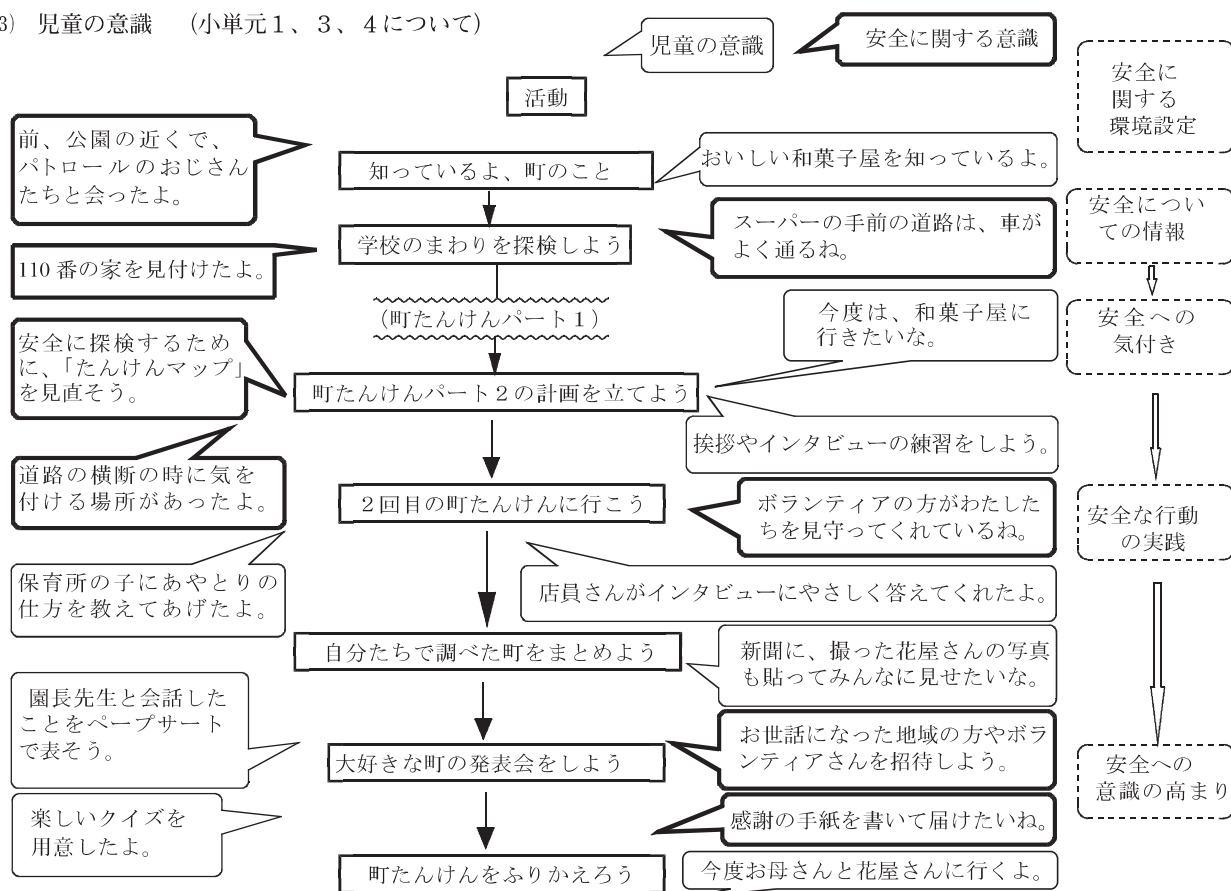
本単元は、4月から11月までの長期間にわたる活動であり、各自がめあてをもって、グループ作り・計画・準備をし、探検に出かける。季節を変え、探検したい場所を選び、繰り返し自分が住む町に出かけていく中で、児童が身近な人々や地域の様々な場所と直接関わり、関心を持ち、自分との関わりに気付いていけるようにしたい。そして、活動を進める中で町のよさや特徴をとらえ、自分たちの命が大切に守られていて、地域が安心して生活できる場なのだと感じ、「わたしの町」への親しみの気持ちや愛着をもてるようになってほしい。

展開に当たっては、地域の方やボランティアの方、保護者へ事前に連絡を取り、学習のねらいを理解していただけるよう配慮する。安全に対する意識を十分高められるよう、交通安全教室や防犯教室との活動の連携を図る。

(2) 学習環境からみた本校の特色

本校学区内を県道が南北に走り、交通量が極めて多い。各地区新住居の建築がめざましく住宅地として発展している。木々や野草等の緑が豊かで遊具も備えられている児童公園が各地区にあり、また、古くからの商店や神社仏閣等の史跡も点在している。学校支援ボランティアの活動も充実しており、学校教育への協力が得られやすく、学習環境に恵まれているといえる。

(3) 児童の意識 (小単元1、3、4について)



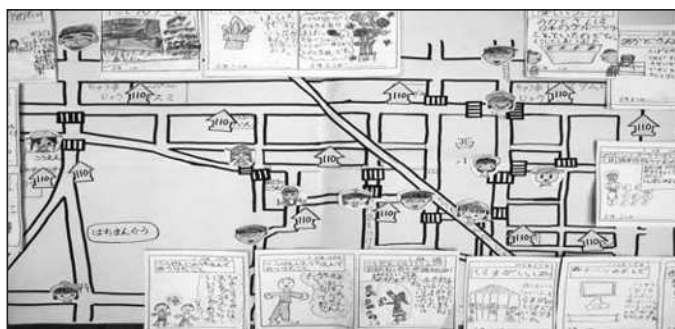
3 単元の目標と評価規準

◎友達と協力して地域を繰り返し探検したり、地域の様々な人と交流したりする活動を通して、自分たちの生活は地域の人や場所と関わっていることに気づき、地域に対して親しみや関心を持ち、安全に生活することができるようにする。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
地域の人や場所、それらとのかかわりに関心を持ち、進んで交流したり適切に接したり安全に生活したりしようとしている。	地域の人と交流し適切に接することや安全に生活することについて、相手や場に応じた行動を考えたり、分かりやすい伝え方を工夫したりして表現している。	地域の人や場所が自分の生活を支えていることや安全に生活できる大切さ、伝え合う楽しさが分かり、それらができるようになった自分に気付いている。

4 活動の実際

小単元名(時数) ねらい	○主な活動 C 児童の反応 ☑安全や地域の人との関わりに関する態度や気づき	◆安全や地域の人との関わりへの 気づきを育むための手立て ☆考察
1 わたしの町 (3) ○地域の人や場所の様子に関心をもち、探検したい場所や調べたいことを見つけようとする。	○地域の知っている場所・もの・ことについて話し合う。 C 私の家の近くに和菓子屋があるよ。 C 幼稚園の周りは木がたくさん生えているよ。 ☑スーパーに入る手前の道路は車がよく通っているよ。 ☑あじさい公園の近くを「わんわんパトロール」のおじさんが歩いているのを見かけるよ。 ○学校の周りを探検して気付いたことを「見つけたことカード」にかき、「たんけんマップ」を作る。 ☑安全に気を付けて一列で歩こう。 C 和菓子屋さんの大きい看板に「かりんとうまんじゅう」って書いてあったよ。 C 幼稚園の園庭で子どもたちが遊んでいたよ。 C 公園にタンポポがたくさん咲いていてきれいだったね。 カードにかこう。 ☑道には、けっこう横断歩道があるね。 ☑「子ども 110 番の家」の黄色い看板を見つけたよ。	◆「地域の安全に関する人や場所・物・こと」に注目するようアドバイスし、意識させる。 ☆その後の話し合いやパート1・パート2の探検に生かせるいくつかの発見が生まれた。 ◆1まいのカードに見つけたことを一つ記録し、探検マップに貼り付けていき、発見した物や場所が視覚的に分かりやすくなるようにする。 〈たんけんマップ〉
普段から気付いていることもあるんだね。 探検前の話し合いを生かして、行動できているね。	〈見つけたことカード〉 	
(小単元2 町たんけんパート1 は 略)		
3 町たんけんパート2 (8) ○地域の人や場所・安全への関心を広げ、繰り返し調べたり比べたりしながら、探検することができるようにする。	○「町たんけんパート2」の計画を立てる。 ☑たんけんマップが新しくなったね！ ☑「町たんけん安全マップ」をよく見てから、2回目の探検場所を決めよう。 C またスーパーに行くよ。1回目の春の時と違う商品があるよね。 ☑行く途中に車に気を付ける所があったよね。自分の地図にもチェックしておこう。 ☑「子ども 110 番の家」があちこちにあるんだね。話を聞いてみたいな。	◆学校の周り探検や町探検パート1をもとに、「たんけんマップ」を「町たんけん安全マップ」と発展させ、子ども 110 番の家やボランティアさんのこと等で知っていること、分かったことをシールやマークで分かりやすく表し、地図上に付け足していくようにする。 ◆「町たんけん安全マップ」は、生活の授業中だけでなく普段から児童の目に触れるよう、掲示しておく。



町たんけん安全マップ

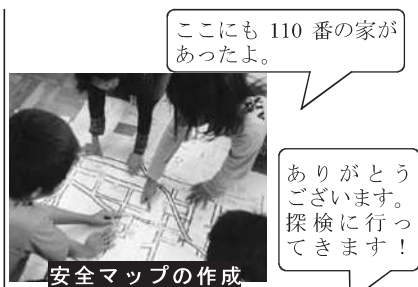
〈探検場所〉

- ・幼稚園
- ・保育所
- ・スーパー
- ・和菓子屋
- ・花屋

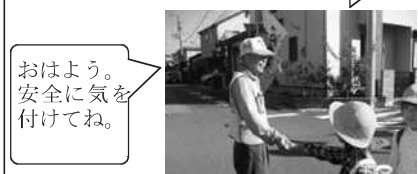
安全の意識や感謝の気持ちが育ってきているね。

店長さんの心遣いを受け止められたね。

- グループごとに、立てた計画にそって2回目の探検をする。
 - C スーパーには、秋の商品がたくさん並んでいるね。
 - C 幼稚園の子によく分かるように絵本を読んであげたよ。
 - C ボランティアさん達が、わたしたちを見守ってくれているね。
 - ☑ ボランティアさんにしっかり挨拶をしよう。
 - ☑ 安全マップにもあった「子ども 110 番の家」だね。
- 2回目の探検を振り返り、発見したことをまとめ、友達と伝え合う。
 - C 花屋さんには、「ジュリアン」という名前の花があったよ。私の名前と似ているから覚えたよ。
 - C 和菓子屋さんの一番人気は「かりんとうまんじゅう」で、三日月の形の和菓子は秋限定なんだよ。
 - ☑ スーパーの店長さんが帰り道の心配までしてくれたよ。やさしいね。



安全マップの作成



ボランティアさんにあいさつ

☆「たんけんマップ」を「町たんけん安全マップ」と変え、安全の視点を前面に出したマップを児童自らの手で作り出したことで、探検場所だけでなく行く途中の環境への関心が生まれ、安全に行動しようとする意識も見られた。また、見守ってくれている人へしっかり挨拶できる児童が増えた。

4 大すきなわたしの町をつたえよう
(6)

○2回の探検で見つけた町のよさや秘密を、友達やお世話になった地域の人・家族に工夫して伝え、地域に対する親しみや愛着をもつことができるようにする。

○2回の探検を振り返り、お世話になった地域の人に町のよさや秘密を楽しく伝える計画を立て、準備をする。

〈招待状〉

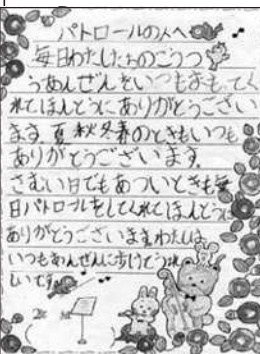


- ☑ お世話になった地域の方やボランティアさんを招待しよう。
- ☑ 交通指導員さんも招待できたらいいな。
- C 園長先生と会話したことをペープサートで表そう。見て喜んでくれるといいな。

- 地域の人を学校に招待して伝える会を行う。
 - ☑ 発表会の休憩時間に、ボランティアさんとお話したよ。
 - ☑ 発表が上手だったとほめていただいたよ。
 - ☑ 友達の発表からも、地域の安全なことや危ないことが分かってきたよ。
- 町探検を振り返る。
 - ☑ 感謝の手紙をパトロールの人に書いて渡したいな。

◆誰を招待したいか、どんな人にお世話になったかを話し合ったり、マップや振り返りカードを見直すことで、招待したい人を考えられるようにする。

☆自分たちで計画して繰り返し町を探検した活動をまとめ、それを伝え、共感を得ることで、地域に対する親しみが増した。わたしたちを見守ってくださっている方への気付きや感謝の気持ち、関わろうとする態度も見られるようになった。



5 本実践を振り返って

「町探検」の単元は、自分たちで計画して繰り返し地域に出かけ、身近な人々や場所と直接関わることで地域のよさに気付いていくことを目指しているが、本単元では特に「安全」への意識が高められるよう視点を当てて取り組んだ。児童の気付きや活動を基に「町たんけん安全マップ」を作成して探検に生かすことで、自分たちの生活が多くの人や環境によって日々守られていることを知り、「安全で安心な町」という意識をもつことができた。

事例6 幼稚園や保育所との連携を図った事例

幼児期の教育から小学校教育への移行を円滑にするためには、保幼小の連携が必要となってくる。連携が密になることで、幼児は、小学校生活を知り不安を解消することができる。1年生の児童は、自分の成長に気付くことができる。また、教師の事前の打合せでは、活動のねらいや内容、幼児・児童の期待する姿などを話し合い、お互いの成長が確認できるようにすることが、連携のポイントとなっている。

1 単元名 あきがいっぱい (26時間) 第1学年 学習指導要領の内容(5)(6)(8)

2 単元について

(1) 児童の実態

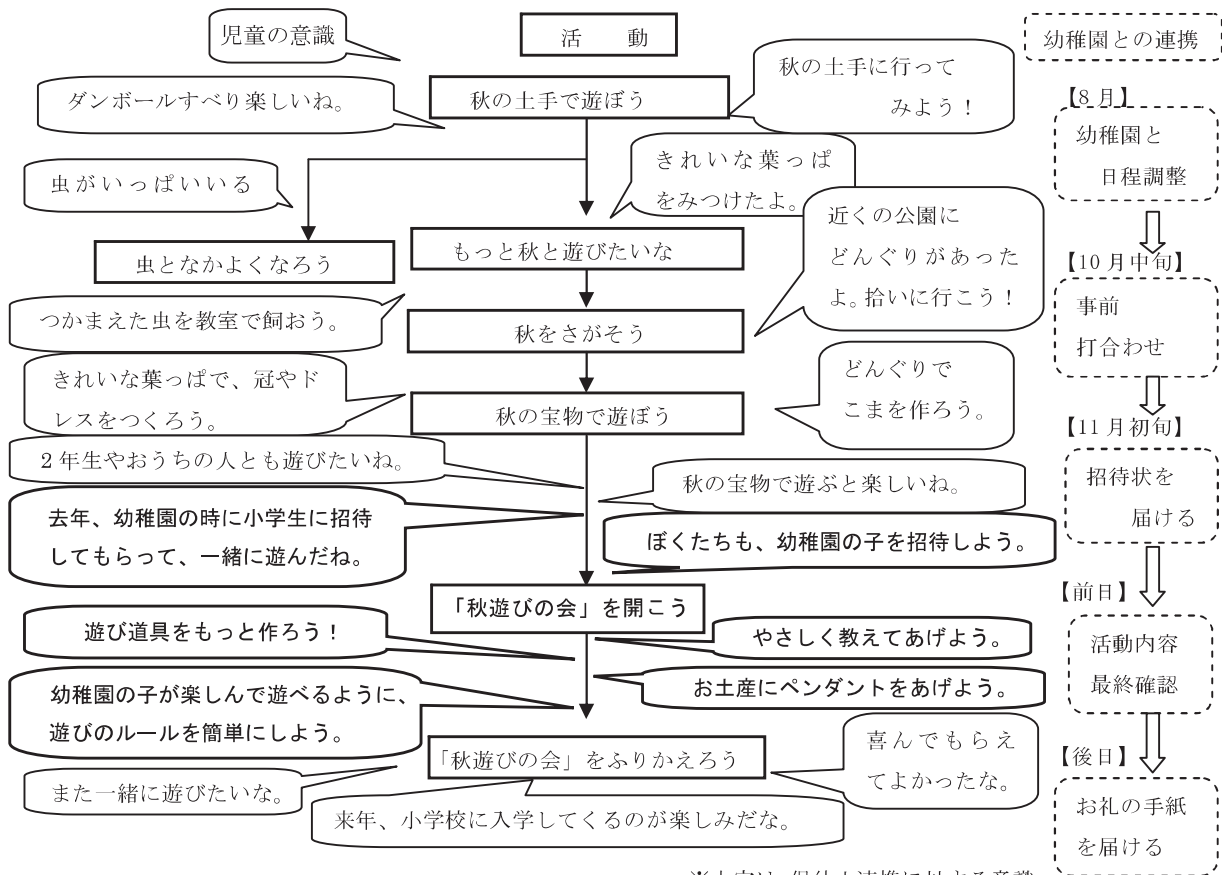
1学期の「〇〇小って楽しいな」(学校探検・土手遊び・通学路探検)、「生き物となかよし」(ザリガニ捕り)では、学校や地域、身近な自然と触れ合う活動を行ってきた。通学路探検では、公園や友達の家を見付けの中で、自分が通っていた幼稚園の前を通り、幼稚園・保育所時代を懐かしく思い出す場面があった。自然と触れ合う活動では、2年生や友達と仲よく土手すべりをして遊んだり、土手の昆虫や水辺の生き物を夢中になって捕ったりする姿が見られた。

(2) 学習環境から見た本校の特色

本校は、荒川の土手沿いに建っており、どの教室からも土手の緑が鮮やかに見える。生活科の学習では、「土手遊び」や隣接しているゴルフ場での「ザリガニ捕り」(1学年)や「野鳥の観察」(2学年)など、地域の団体(荒川ゆめクラブ)の協力を得ながら、自然と触れ合う活動を行っている。

ここでは、1学期の土手や水辺の遊びの発展として、より自然とのかかわりを深め、体いっぱいに秋を満喫できるように「秋遊び」を展開したい。そして、「秋遊びの会」に地域の幼児(年長児)を招待し、一緒に活動することで人との関わりを大切にする心を育て、内面的な自己の成長に気付かせていきたい。

(3) 児童の意識



※太字は、保幼小連携に対する意識

3 単元の目標と評価規準

◎落ち葉や木の実、空き箱など身近にある物で飾りやおもちゃを作り、遊ぶことを通して季節の変化に気付くとともに、友達や地域の幼児と仲良く遊ぶことができる。

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然や友達・幼児と進んでかわり、楽しく遊ぼうとしている。	自然や物、場所などの特徴や素材を生かして遊び道具をつくり、季節に合った遊びや幼児が楽しめる会を考えることができる。	自然や身の回りにあるものを使うなどして遊べることや、友達や幼児と遊ぶと楽しいことに気付いている。

4 活動の実際

(1) 事前活動

【○幼稚園との関わり】

8月中 9月 10月	○地域の幼稚園に連絡をして、「秋遊び会」の日時を決める。 ・秋の土手に行き、虫取りや土手遊びを楽しむ。 ・土手や近くの公園に行き、宝箱に秋の宝物を集める。 ・集めた秋の宝物で、遊び道具を作って遊ぶ。（1年生同士） ・秋遊びの会の準備をする。（遊びの内容・進行など） →幼児たちへ招待状・プレゼントの作成 「秋遊びの会」プログラムの作成 学校紹介カードの作成（画用紙） 遊びのお店紹介カードの作成	【児童が作成した招待状】 
11月	○幼稚園に出向き、秋遊びの会の内容・当日の日程について確認する。子どもたちが作った招待状を渡す。	
*前日	○幼稚園と「秋遊びの会」の最終確認をする。（幼児の人数・学校到着時刻など）	

(2) 本時の活動（24・25／26時）

児童の活動	◇児童の意識 ◆幼児の意識	教師の働きかけ○小学校●幼稚園
○「秋遊びの会」の準備をする。	◇幼稚園の子どもたち、楽しんでくれるかな。 ◇今日は、幼稚園の子にやさしくしよう。 ◇明るく元気な拍手と笑顔で迎えよう。	○幼児が到着する前に、体育館に秋遊びの会の準備をしておく。
1 本時の学習内容を確認し、地域の幼稚園児を迎える。	【はじめの言葉】  ようこそ。 今日はなかよく遊ぼうね。 【冠のプレゼント】 	○幼児が小学校へ到着したら、体育館へ案内する。 ●バスから幼児を降ろし、体育館へ移動する。
2 「秋遊びの会」をする。	◇なかよく遊ぼうね。	○歓迎の挨拶は、代表の児童が行うが、一人一人が積極的に幼児と関わりがもてるようにする。
①はじめの会をする。	◇小学校の給食は、とてもおいしいよ。	○来年入学してくる幼児に、小学校の様子を分かりやすく伝えるために、絵や言葉で教えるようにする。
○歓迎のあいさつ	◇土手でいっぱい遊べるよ。楽しみにしててね。	○お店のリーダーには、遊びの内容紹介について事前に練習する場を設け、幼児に分かりやすく説明できるようにしておく。
*冠のプレゼント	◆わあ、おもしろそう。	●「楽しそうだね」等と感想を言い幼児の意識を高める。
○小学校の紹介	◆はやく学校にいきたいな。	○幼児に積極的に声をかけて一緒に遊んでいる児童を称賛し、恥ずかしくて、声をかけられずにいる児童を励ます。
○遊びの紹介 (お店のリーダー)	◇遊びの楽しさを伝えよう。	
	【遊びのお店紹介】  どんぐりごまのお店です。 楽しいから遊びに来てね！ 手作りの景品もあるよ。	
②遊びの会をする。	◆どこにしようかな。まよっちゃう。 ◇大きな声を出して、たくさん来てもらおう。 ◆楽しいな。もう1回やろう！ ◇夢中になって遊んでくれて、うれしいな。	

	◇遊びに来てくれてありがとう。手作りの景品をあげるよ。 ◆やった！ありがとう。	●幼児と一緒に遊びを楽しみながら、小学生となかなか打ち解けずにいる幼児を支援する。
	【環境構成図】 ひょうたん ボウリング どんぐり こま・めいろ オナモミ まとあて まつぼっくり あて まつぼっくり けんだま どんぐり でっぽう おちばの さかなつり 【まつぼっくりまとあて】	
③みんなで歌を歌う。	◆小学生のお友達と歌えてうれしいな。 ◆やっぱり、小学生は歌が上手だな。 ◇幼稚園の子は、元気に歌ってかわいいな。	○楽しく遊んだ余韻を残しながら一緒に歌を楽しめるようにする。
④終わりの会をする。	◇自分も、幼稚園時代はあんな感じだったのかな。	○幼児や幼稚園の先生に、感謝の気持ちをこめて、感想を伝えるよう事前に指導しておく。
○感想発表	【幼児からお礼のプレゼント】	●お礼に挨拶ができるよう、事前に練習の場を設けておく。
○お礼の挨拶 (幼児) *お礼のお手紙	○元気だね。また遊ぼうね。 ◆楽しかったな。 小学校に入学するのが、楽しんだ。	○幼児を体育館から駐車場まで案内する。
○見送り	◇幼稚園の子に、優しくできてよかったな。 ◇来年入学してきたら、また遊ぼう。	●幼児の人数・持ち物を確認してからバスに乗り、幼稚園へ移動する。
3 本時の活動を振り返る。	◇お店のみんなで、力を合わせて片付けよう。 ◇道具は、また遊べるように大事に片付けよう。	○本時の活動を一人一人振り返り、幼児と一緒に遊ぶ楽しさや、自分たちの頑張り、成長に気付くことができるように助言する。
4 後片付けをする。		○みんなで協力して、素早く片付けるように、声をかける。

(3) 事後活動

【○幼稚園との関わり】

11月中	・「秋遊びの会」で楽しかったことや見つけたことを絵や文に書く。(国語・学級活動) ・幼稚園児にお礼の手紙を書く。 ○幼稚園に出向き、子どもたちが書いたお礼の手紙を渡す。 ・「また一緒に遊びたい」「来年入学してくることが楽しみだな」という気持ちを大事にし、来年の活動につなげる。(2年生と1年生の活動：学校探検・土手遊びなど)
------	---

5 本実践を振り返って

本単元は、自然や身近にある物を使って遊ぶ活動を自分たちで楽しみ、さらに地域の幼児を招待して遊ぶ会を計画し実行した。そこでは、幼児へ「こうするといいよ。」と遊びのアドバイスをしたり、ルールを幼児に合わせて簡単なものにしたたり、児童の内面的な成長が見られた。また、自分が作った遊び道具を幼児たちに楽しんでもらったことを喜び、「また遊びたい」という思いを強くもつことができた。幼児にとっても、小学生と交流が深まり、来年の入学を楽しみにすることができるようい機会になったのではないかと考える。今後も、幼稚園や保育所との連携を図り、お互いが成長できるような活動を工夫していきたい。